

都道府県名	岡山県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	笠岡市立笠岡小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	3	2	2	2	15	24
児童数	51	64	68	87	65	67	3	405	

研究の概要

1. 研究主題

自ら学び，自ら考える児童の育成
- 基礎・基本の定着と個に応じた指導を通して -

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年算数
子どもの理解や習熟に差が出やすい教科，学年であるため。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 自ら学び，自ら考える児童の育成 - 基礎・基本の定着と個に応じた指導を通して</p> <p>研究の見通し（仮説） 年間を見通した各教科の単元の目標分析を行い，その単元で育てる資質や能力を明確にし，個別指導やグループ別指導，TT，理解や習熟の程度に応じた指導等の個に応じたきめ細かな指導を行えば，児童の学ぶ意欲を喚起するとともに，基礎・基本の学習内容の定着を図ることができ，確かな学力の向上につながると思われる。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業における基礎・基本の定着を図る <ol style="list-style-type: none"> (1) 学力実態調査などによる分析 <ul style="list-style-type: none"> 学校課題の分析 児童の個別課題の分析 学力テストによる実態調査 (2) 各教科の目標分析表の作成 <ul style="list-style-type: none"> 年間指導計画の作成 評価規準の作成 (3) 問題解決的な授業展開 <ul style="list-style-type: none"> 笠岡小学校授業プランの作成 2 個に応じた指導方法・指導体制の工夫を図る <ol style="list-style-type: none"> (1) 指導組織の確立 (2) 少人数指導の工夫 (3) TTによる指導方法の改善 3 学校裁量時間等を利用して基礎・基本の定着を図る <ol style="list-style-type: none"> (1) 朝読書・かさどく（読む力の育成） (2) 朝自習・チャレンジタイム（自分の力に応じて計算や漢字の復習） 4 学習環境・学習成立の基盤づくりを図る <ol style="list-style-type: none"> (1) 授業に生きる学習ルールの見直し（身構え，気構え，物構え） (2) 授業中の話型や発表の仕方などの見直し (3) 家庭学習の見直し 5 生活時程の工夫や授業時数の確保を図る <ol style="list-style-type: none"> (1) 時間割の工夫と授業時数の確保 (2) 学習と生活のリズムをつくる生活時程 6 保護者・地域との連携を図る
--------	---

平成 15 年度	<p>テーマ 自ら学び、自ら考える児童の育成 - 基礎・基本の定着と個に応じた指導を通して</p> <p>研究の見通し 算数科を中心に、年間を見通した単元の目標分析を行い、その単元で育てる資質や能力を明確にし、理解や習熟の程度に応じた少人数指導・習熟度別指導など、個に応じたきめ細かな指導を積極的に行えば、児童の学ぶ意欲を喚起するとともに、基礎・基本の学習内容の定着を図ることができ、確かな学力の向上につながると考える。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 算数科を中心とした授業の改善を図る <ol style="list-style-type: none"> (1) 少人数指導・習熟度別指導における「指導方法・指導体制」の工夫 算数科において少人数指導・習熟度別指導に取り組み、個に応じた指導を充実させ、基礎・基本の定着を図る。 個に応じた補充的な学習や発展的な学習の展開を図る。 (2) 目標・評価規準の明確化を図る 算数科を中心に、年間指導計画を作成し、単元の目標を焦点化することにより、「その単元でこそ付けたい力(基礎・基本)」を明確にし、よりポイントをしばった授業展開をし、基礎・基本の定着を図る。 評価規準や評価方法を明確にした授業構築をし、指導と評価の一体化を図り、基礎・基本の定着を図る。 (3) 算数科授業プランの作成をする 算数科を中心に問題解決的な笠岡小授業プランを作成し、基礎・基本の定着を図る。 習熟度別指導を支える算数科授業の充実を図る。 2 繰り返し学習の工夫を図る <ol style="list-style-type: none"> (1) チャレンジタイム(火・木の朝8:20~8:35の15分間)の実施。 (2) 朝読書(月・水・金の朝8:20~8:35の15分間)の実施 (3) 単元終了時における習熟プリントの実施。 3 学習の基盤づくりを図る <ol style="list-style-type: none"> (1) 算数科を中心に、学習のルール、学習のしつけを作成し、学びの習慣化を図る。 (2) 学習のリズムをつくる生活時程や時間割の工夫をする。 (3) 適切な課題による効果的な家庭学習の習慣化を目指す。 4 学力の実態把握と分析を行う <ol style="list-style-type: none"> (1) 学校課題の分析 (2) 児童の個別課題の分析 (3) 学力テストによる実態調査と分析 5 保護者・地域との連携を図る 6 1・2年次の成果と課題をまとめる
----------------	---

平成 16 年度	<p>テーマ 自ら学び、自ら考える児童の育成 - 基礎・基本の定着と個に応じた指導を通して</p> <p>研究の見通し 算数科を中心に、年間を見通した単元の目標分析を行い、その単元で育てる資質や能力を明確にし、理解や習熟の程度に応じた少人数指導・習熟度別指導を積極的に行えば、児童の学ぶ意欲を喚起するとともに、基礎・基本の学習内容の定着を図ることができ、確かな学力の向上につながると考える。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 算数科を中心とした授業の改善を図る <ol style="list-style-type: none"> (1) 少人数指導・習熟度別指導における「指導方法・指導体制」の工夫 算数科において少人数指導・習熟度別指導に取り組み、個に応じた指導を充実させ、基礎・基本の定着を図る。 個に応じた補充的な学習や発展的な学習の展開を図る。 (2) 目標・評価規準の明確化を図る 算数科を中心に、年間指導計画を作成し、単元の目標を焦点
----------------	--

化することにより、「その単元でこそ付けたい力(基礎・基本)」を明確にし、よりポイントをしばった授業展開をし、基礎・基本の定着を図る。

評価規準や評価方法を明確にした授業構築をし、指導と評価の一体化を図り基礎・基本の定着を図る。

(3) 算数科授業プランの作成をする

算数科を中心に作成した問題解決的な笠岡小授業プランを修正し、基礎・基本の定着を図る。

習熟度別指導を支える算数科授業のより一層の充実を図る。

2 繰り返し学習の工夫を図る

(1) チャレンジタイム(火・木の朝8:20~8:35の15分間)の実施。

(2) 朝読書(月・水・金の朝8:20~8:35の15分間)の実施。

(3) 単元終了時における習熟プリントの実施。

3 学習の基盤づくりの工夫を図る

(1) 算数科を中心に作成した学習のルール、学習のしつけを徹底し、学びの習慣化を図る。

(2) 学習のリズムをつくる生活時程や時間割の工夫をする。

(3) 適切な課題による効果的な家庭学習のより一層の習慣化を目指す。

4 学力の実態把握と分析を行う

(1) 学校課題の分析

(2) 児童の個別課題の分析

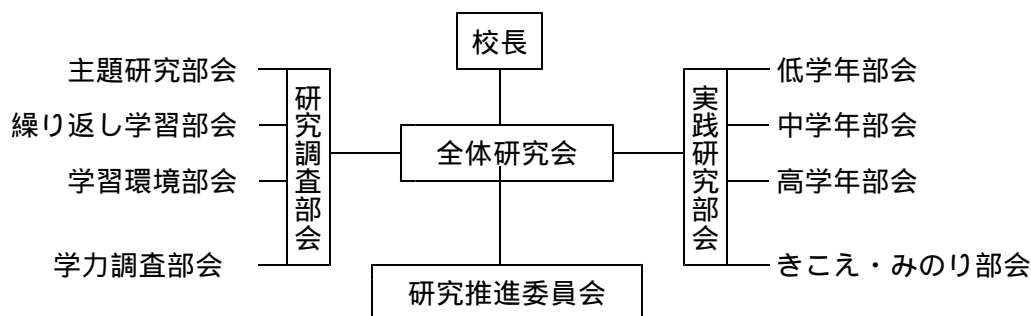
(3) 学力テストによる実態調査と分析

5 保護者・地域との連携を図る

6 3年間の成果と課題をまとめ、研究発表会で公開するとともに、研究指定終了後も継続的な実践が可能となるように、次年度への基盤整備等を行う。

(3) 研究推進体制

1 研究の組織



2 各部会の具体的な活動内容

(1) 研究推進委員会

- ・校長、教頭、他7名の教員で構成する。
- ・研究推進のための計画立案と部会の連絡・調整をする。

(2) 主題研究部会

- ・研究主題
- ・算数科
- ・少人数指導
- ・ティーム・ティーチング
- ・研究主題、研究の内容、研究の重点などを提案。
- ・算数科における研究の内容、研究の重点などの提案。
- ・指導と評価の一体化についての提案。
- ・少人数指導の工夫や改善の提案。
- ・TTによる指導方法の工夫や改善の提案。

(3) 繰り返し学習部会

- ・8名の教員で構成する。
- ・チャレンジタイムの工夫や改善の提案。

- ・朝読書の工夫や改善の提案。
- ・単元終了時の習熟プリントの工夫や改善の提案。
- (4) 学習環境部会
 - ・8名の教員で構成する。
 - ・学習のルール、学習のしつけ等の作成や提案。
 - ・生活時程や時間割の工夫や改善の提案。
 - ・家庭学習の工夫や改善の提案。
- (5) 学力調査部会
 - ・6名の教員で構成する。
 - ・学力実態調査の準備。 ・学力実態調査の実施。 ・学力実態調査の分析。
- (6) 低学年部会
 - ・8名の教員で構成する。
 - ・部会での研究を進める。
- (7) 中学年部会
 - ・9名の教員で構成する。
 - ・部会での研究を進める。
- (8) 高学年部会
 - ・5名の教員で構成する。
 - ・部会での研究を進める。
- (9) きこえ・みのり部会
 - ・5名の教員で構成する。
 - ・部会での研究を進める。

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- ・ 研究目標の設定とそれに基づく研究の方法を全教職員で研修し、授業実践したことが児童の学ぶ意欲につながり、基礎・基本の定着につながっているととらえている。
- ・ 授業45分の最小の単位時間を15分＝1モジュールとして編成したが、モジュール化したことで、算数科での習熟度別指導などでは、指導内容によって60分(4モジュール)、75分(5モジュール)など、1単位時間の弾力的運用が可能になり、効果的であった。
- ・ 1・2年の算数科では、同一学級内で複数の教師が協力し、理解や習熟の程度に応じて適宜学習集団を分割して、指導計画に基づいた習熟度別指導を行った。このことにより、個に応じた適切な指導を行うことができ、基礎・基本の習得を図ることができたと考える。
- ・ 3年の算数科では、同一学級内で理解や習熟の程度に応じて少人数のグループを編成して習熟度別指導を行った。コースを児童自身が選択することで、学習の主体性が高められるとともに、コースごとに学びに応じた指導をすることにより、学習内容の定着を図ることができたと考える。
- ・ 3・4・5・6年の算数科での少人数指導では、学級の枠を超えた習熟度別指導を取り入れた。児童自身によるコース選択の授業により、自ら学ぶ意欲や主体性を向上させるとともに、コースごとに児童の実態に応じた適切な指導をすることにより、基礎・基本の確実な習得を図ることができたと考える。
- ・ レディネステストやふりかえりチェックなどによる自己評価から、児童が自分でコースを選択したり、習熟度にあったコース別学習を進めたりしたことにより、習熟度別学習を望む児童が増えた。

2. 今後の課題

- ・ 結果責任が問われている。学力は向上したのかどうか、説得力のある説明をしていくための客観的な事実を明らかにしていきたい。
- ・ 習熟度別のコースに分かれることが目的ではない。コース別に分かれた後の授業が大切である。習熟度に応じて授業を組み立てるのか、授業改善が大事である。今後もさらに研究を深めていきたい。
- ・ 習熟度別指導における一人一人を大切に評価の在り方について、今後もさらに研究を深める必要がある。
- ・ 発展的な学習の開発にも、補充的な学習の開発にも、コースごとの学習内容の在り方にも、深い教材研究が必要である。今後も、各コースの充実を目指し、教材研究・教材開発に取り組んでいきたい。

学力等把握のための学校としての取組

児童の個別課題の分析

- ・ 授業前後における意識，学習意欲などの変容をアンケートや教師による観察などで捉える。
- ・ 学習後の理解度，習熟度などの伸びや変容をペーパーテストやプリントなどで捉える。

学力テストによる実態調査

- ・ 平成15年6月（国語，算数）を全学年実施。
- ・ 平成16年5月（国語，算数）を全学年実施予定。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成16年度は，笠岡小学校を会場として，10月29日に研究発表会（全学年の授業公開・研究の概要・研究の成果と課題・講演等）を行う。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無